

## 平成 28 年度の教育活動等に対する学校評価書

平成 29 年 3 月 7 日

学校法人大石寺学園上野幼稚園長 吉野 友勝

学校法人大石寺学園上野幼稚園学校関係者評価委員長 清 信昭

### 1 幼稚園の教育目標

上野幼稚園は、教育基本法に則り、学校教育法に従い、幼児を保育し、適当な環境を与えて宗教情操の涵養と健全な心身の発達を助長することを目的とする。

本園ではめざす幼児像として

「健やかな体と豊かな心を育てる」ことを目指し、具体的に次の 5 項目を掲げる

1. 丈夫な体を持つ子どもに
2. 感謝の心、思いやりのあるやさしい心を持つ子どもに
3. 豊かな自己表現ができる、創造性を持つ子どもに
4. 頑張る心、辛抱強い心を持つ子どもに
5. よく聞き、よく見、よく考えることができる子どもに

### 2 本年度の重点目標（学校評価の具体的な目標や計画）

評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することによって、教師自らが客観的に自園を見る目を養い、教育内容の改善に主体的に取り組んでいくことを重点項目とする。

### 3 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

(※評価点は、A (十分に成果があった)・B (成果があった)・C (少し成果があった)、D (成果がなかった) の段階で表すこと。)

評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
	評価点	幼稚園としての反省と改善策	評価点	意見
・教育計画は、子どもの実態を的確につかみ、幼児の発達に即した指導が工夫され、具体的な手立てが講じられている。	B	反省の記録・発達段階の考慮・学年間の話し合い等を基に無理のない指導ができた。昨年と同じような活動が多くなってしまった。	A	計画が毎年似てしまうのは止むを得ない。 子どもを良く観察し、工夫があり具体的な手立てが講じられている。
・園がめざす幼児の姿を具体的にイメージできる。	A	主に聞くことに重点を置き指導できた。子どもらしさを引き出しつつ指導し教育指針 5 項目に近い子どもに育っている。運動面のサーキット表を上手く活用したい。子ども像の価値観は、保護者との類似・共通点と共に相違点も感じる。	A	教育方針に基づき、年齢に応じた指導ができている。工夫と具体性がありイメージできる。運動面はもっと活発でもよい。
・子どもの良さを認めて評価しようとしている。	B	個々に合わせた声掛け、良さを認め褒める、良い姿をクラス全体に伝える等を通して子どもが自信を持つようになっている。もう少し細かい配慮が必要。	A	園児の表情・先生の接し方・公開保育での園児の発言や行動から十分感じられる。
・遊びを通して工夫したり、協力したりする姿が見られる。また、遊びを通しての総合的な指導ができている。	C	年中長は、個人から集団遊びがある程度できるが、個人差・年齢差により、創造的な遊び、ルールのある遊びは研究や工夫が必要。安全面への配慮も人的には不十分な時もある。	B	日々努力している姿が公開保育でくみ取れる。個人差・年齢差への対応は継続的努力が必要。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・規則正しい生活習慣の定着に向けての指導を行う。</li> </ul>	A	日々の繰り返しでほぼ定着しつつある。個人差への気配りが必要。	A	保護者の協力を得ながら粘り強い指導が定着している。毎日のお着替えからも定着度がわかる。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員が年に1回以上公開保育を参観し、研修する。</li> </ul>	A	自分を見直し、他から学ぶ良い機会になっている。参観している時自分のクラスから離れるので補助の先生がいるとありがたい。	A	公開保育に全職員が参観し、真剣な眼差しから園児を思う気持ちが伝わってくる。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各研修会や研究会に積極的に参加して職員に資料提供をする。</li> </ul>	A	様々な情報や知識・技能を得る良い機会となっている。報告会も園内で開かれ共通理解ができる。	A	夏季休業中の研修会参加に先生方の熱意が感じられる。また結果の情報交換・共通理解ができています。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の幼児をよく観察するように心がけている。</li> </ul>	B	健康状態を中心に、心の変化も含め常に注意しているが十分とは言い切れない。保護者に満足いただけないこともある。	A	園舎の動線が生かされ、全職員が担任の枠を超えて良く観察している。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員間の協力的な指導ができています。</li> </ul>	B	支援員の協力を得たり学年間の協力で十分ではないが連携ができています。後輩が気軽に話しやすい環境作りをもっと心掛けるべきだった。	A	忠告しあえる体制・若い先生への指導ができており、信頼関係ができています。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の実情や要望による預かり保育ができています。</li> </ul>	A	充実していることが子どもの声から伝わってくる。	A	定着している。これからもお願いします。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・月のよいや学年だよりの発行など、情報を発信している。</li> <li>・情報発信手段として、ホームページを活用するなど、広く周知するための工夫をしている。</li> </ul>	A	園長だより・学年だよりとも手書きのぬくもりある様々な情報提供ができています。ホームページは、個人情報やタイミングがあり、程よい更新が難しい。	A	学年・園長だよりとも親しみある手書きで、定期的に配布され情報が伝わっている。ホームページの更新は大変ですが、認知度・利用度は増している。継続して下さい

				い。
・季節の行事や遠足、保育参観の実施状況は、より活発な取り組みになっているか。	A	反省を生かした効果的な取り組みができているが、遊びの時間がとれなかったり追われてしまうこともあり、更なる工夫・見直しも必要。	A	過去の記録を残し、反省が生かされ安定しており、現状に満足している。